

# みなみかぜ

## 令和5年度学校教育目標

「ふるさとと人を愛し、自らの夢に向かって、力強く歩み続ける子どもの育成」

## 6月は人権旬間です

6月の全校集会で、「と・も・だ・ち」という本を紹介しました。

集会で話したことを簡単に紹介します。



引っ越ししてきたアンディは、ともだちをたくさんつくるつもりでした。でも、この子はうるさいし、あの子はらんぼうだし、どの子もちょっとずつ好きになれない。ともだちのできないアンディは、ひとりぼっち。するとママが…。ともだちの正しい作り方を教えます。簡単に言うとそんなお話です。

そのときのママの一言は、「もし、おともだちをつくりたいのなら、あいてのありのままを、大事に思っ**てあげな**きゃ。」これは、子どもだけでなく、大人の世界でも通用するメッセージです。そのお母さんの言葉で、アンディはもう一歩踏み込むことが出来たので、みんなとお友達になれるのです。

校長先生がなぜこの本を紹介するかと言うと、この絵本に出てくるアンディは、友達が最初できませんでした。なぜかと言うと自分とちがうところを持っている子を好きになれなかったから…。でも、お母さんが「みんながみんな同じではないのよ。」と大切なことを教えてくれました。そして、「お友だちをつくりたいなら相手のありのままを大事に思**わな**きゃね。」と言ってくれるのです。そして、その意味がわかったから友だちができていくのです。

みなさんはアンディのお母さんの言葉の意味がわかりますか？世の中には自分と違う人がいます。いっぱいいます。体が大きい人中くらいの人、小さい人。髪の色肌の色、みんな同じではありません。めがねをかけている人、勉強が好きな人嫌いな人、運動やスポーツが得意な人、そうでない人。誰とでもすぐ友だちになれる人、友だちをつくるのに時間がかかる人…。

アンディのお母さんが教えてくれるのは、自分と違う人を意味もなく嫌ったり、仲間はずしをしたり悪口を言ったりしていると友達はできない…。いつまでも一人だということなのです。世の中には自分とちがう人ばかりです。でも、みんなちがってみんないいのです。そして、みんなちがって、みんな大切なのです。

というお話を子どもたちにしました。主人公アンディは、自分のしたいことに賛同してくれない友達のことをよく思いませんでした。人間誰も、自分のままならない相手に対しては悪感情を持ってしまいがちです。しかし、いつまでもそのままでは、仲間づくりはできません。

アンディのお母さんは「みんながみんな同じではないのよ。」

「お友だちをつくりたいなら相手のありのままを大事に思**わな**きゃね。」

と絵本を読んでいる読者にとっても大切な言葉を語りかけてくれます。なんてやさしい絵本なんだろう。私がこの本の紹介をしようと思ったのはそのためです。

6月の人権月間が、子どもたちの優しい心をさらに引き出すことができればと心から思っています。